

水環境の意識変化に関するワークショップ等の事例報告

Reports on the Cases Regarding Changes in the Awareness of Water Environments, Including Workshops

まちづくり・防災グループ 研究員 松尾 峰樹
 まちづくり・防災グループ 研究員 阿部 充
 主席研究員 光橋 尚司
 まちづくり・防災グループ 研究員 佐治 史

1. はじめに

福島県は豊かな水環境を有しているが、平成29年度に福島県が実施した世論調査によれば、東京電力福島第一原子力発電所事故以降、河川などで親しむ機会が減っているなど、様々な課題が現れている。これらの課題に効果的に対応するためには、地域の方々の属性や普段の水との関わり方が多様であると考えられることから、関係者の意識を把握し、様々な働きかけを通じてその変化を調べる必要がある。

福島県環境創造センターでは、いわき市内を流れる夏井川流域の2地区をモデルに、水環境に関するワークショップを2回、イベントを1回（以下「ワークショップ等」という）を行い、地域の方々の水環境に関する意識の変化を調査した。

本稿は、上の調査研究の支援として、平成29年度に福島県環境創造センターから「水環境の意識変化に関する研究のためのワークショップ等企画運営業務」を受託し、当研究所が行ったワークショップ等の企画立案、開催内容、成果等についてまとめたものである。

2. ワークショップ等の企画及び調整

2-1 対象地区

水量や水質、水辺の風景等、水環境は地域によって様々であるため、人々の水環境に対する意識は居住地に大きく関係すると考えられる。そこで本研究では、対象地区として市街地と郊外の2箇所を選定した。市街地は夏井川支川の新川流域、郊外は夏井川支川的好間川流域を選定した（図-1）。



図-1 対象地区の位置図

2-2 ワークショップ等の参加者

ワークショップ等参加者は、意見の偏りがなく、多様な分野の方々から選定することとした。自治体の協力を得て、地域住民（自治会）、商工関係（商工会議所）、教育関係（小学校）、自然環境関係（環境団体等）の各分野の団体代表者に個別に訪問し、協力及び参加者の推薦を依頼した。

その結果、新川流域では16名、好間川流域では17名に参加いただくことができた。また、夏井川流域で活動する環境団体の代表者、いわき市役所職員には、両地区のワークショップ等にオブザーバーとして参加いただいた。

2-3 ワークショップのグループ分け

ワークショップでは、議論の活発化や発言機会の増加を促進させるため、参加者を少人数のグループに分けることが一般的である。

グループ分けにあたっては、1グループ5人程度とし、性別、年齢、居住区、職業等の属性や個別訪問時の印象（発言の積極性等）を勘案し、ばらつきが極力少なくなるよう配慮した。

2-4 ファシリテーター及び実施概要

(1) ファシリテーター

いわき市は福島第一原子力発電所事故の影響を受けた地域であることから、ワークショップ等のファシリテーターを、地域の実情を熟知した地元の学識経験者に務めていただいた。

(2) 実施概要

ワークショップ等の開催時期については、参加者は平日・仕事後の開催希望が多かったことから、平日の18時から20時に開催することとした。

ワークショップについては、第1回は参加者が日頃感じている流域の魅力や課題意識の共有化、及び水環境について地域の方々に関心をもってもらえるイベン

トを考えることとした。また第2回は、第1回で提示された意見を参考に、流域の魅力を地域の方々に知っていただくための流域マップを作成することとした。

イベントについては、開催期間が冬季となることから、流域の魅力を箇所等を現地の写真を用いて上流から下流に向かって順に紹介しながら、地元有識者より流域の歴史、文化等について講談していただく擬似的な現地見学体験（バーチャルツアー）を行うこととした。



図-2 新川流域マップ

表-2 ワークショップ等の実施概要と開催時期

項目	実施概要	開催日	
		新川流域	好間川流域
第1回ワークショップ 「第1回水環境に関するワークショップ」	・ 流域の魅力と課題について考える ・ 地域の方々に関心をもってもらえるイベントを考える	平成29年 9月28日	平成29年 9月29日
イベント 「流域の歴史・文化など魅力を再発見！ バーチャルツアー」	・ 流域の魅力スポット等を現地の写真を用いて上流から下流に向かって順に紹介していく擬似的な現地見学体験 ・ 地元有識者による、流域の歴史、文化等について学ぶ講座	平成29年 12月8日	平成29年 12月7日
第2回ワークショップ 「第2回水環境に関するワークショップ」	・ 流域マップの作成	平成30年 1月26日	平成30年 1月30日

3. ワークショップ等の開催

前節の企画に基づき、ワークショップ等の準備及び運営を行った。ワークショップ等の雰囲気が固くならないよう、軽食を取りながら意見交換が行えるようにした。

またワークショップ中は自グループでの意見交換に集中できるように、他グループのテーブルがなるべく視界に入らないよう机を配置した。



写真-1 ワークショップ等の開催状況
(左：新川流域のイベント、
右：好間川流域の第2回ワークショップ)

4. ワークショップ等の成果

4-1 流域マップ

各流域における一連の活動の成果として、ワークショップやイベントで提示された流域の魅力等をまとめた流域マップを作成した(図-2)。流域マップは参加者に配布すると共に、地域住民への魅力PR資料として市役所や各地区の支所等、関係各所に配布された。

4-2 水環境に関する意識変化

福島県環境創造センターが行った意識変化に関する調査研究によると³⁾、ワークショップが参加者同士の河川に対する様々な視点や考え方等の共有化に寄与し、河川に対する意識に良好な変化をもたらしたとされている。

第2回ワークショップ後に実施したアンケートでは、「流域の新たな魅力が発見できた」、「上下流域の交流のきっかけとなり有意義であった」等の感想をいただいた。

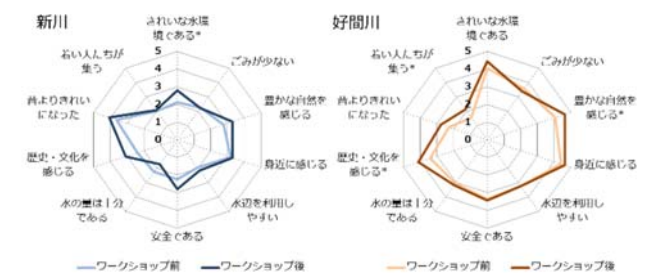


図-3 福島県環境創造センターの調査結果の一例
(ワークショップ前後の河川に対するイメージの変化について)

5. おわりに

ワークショップ等の企画・運営に当たり、お忙しい中ご協力いただきましたワークショップ等の参加者の皆様、東日本国際大学福迫副学長様、夏井川流域ネットワーク代表橋本様、ならびに福島県環境創造センター担当者各位に厚くお礼申し上げます。

<参考文献>

- 1) 福島県：平成29年度「福島県政世論調査」結果、2017.11
- 2) 福島県環境創造センター：「水環境の意識変化に関する研究のためのワークショップ等企画運営業務」実施結果報告書、2018.3
- 3) 福島県環境創造センター研究部：地域対話が河川流域住民の水環境に対する意識に与える影響、2018